

4 分析結果の概要（詳細分析は9ページから24ページまで）

(1) 論理的文章（大問〔一〕）を読む力について

内田樹著『昭和のエートス』より、著作権の許諾を取った上で出題した。本文は、パソコンとネットワークを使う教育のメリットと限界を、教育の本質と関連付けて述べた部分である。平易な文章であるため全体的に正答率が高いが、一般化された表現を具体的に説明する問いについては、正答率が低い。文脈に沿って言葉を置き換えながら丁寧に読み解く経験をさらに積ませる必要がある。

(2) 文学的文章（大問〔二〕）を読む力について

宮下奈都著『羊と鋼の森』より、著作権の許諾を取った上で出題した。本文は、双子の姉妹を主人公とする現代の小説の一部分である。表現の効果を問う設問の正答率が低いので、文章全体を俯瞰的に読み取り、その特徴を見つけ出す機会を授業の内外において増やすことが肝要である。

(3) 国語基礎力（大問〔三〕）について

前半は新聞記事の読み取りについて、後半は漢字の読み書きや言葉の知識について出題した。全ての階層において正答率の低い設問が後半にあった。多くの生徒が知識として内包していない言葉や漢字については、授業において知識として習得するだけでなく、あらゆる生活の場面を通して触れ、身に付けていくような機会をつくりたい。

(4) 古文（大問〔四〕）を読む力について

鎌倉時代中期の説話集「古今著聞集」より出題した。他の大問と比較して、全ての階層で正答率が低く、特に下位層では顕著であった。動作や発語の主体に一つ一つ着目しながら丁寧に読解するだけでなく、近視眼的にならずに全体の内容を俯瞰的に把握する経験を積ませたい。